

(参考)

各資格・検定試験団体作成資料

- 入試等における利用状況 -

全国の主要国公立大学の入試関係者 100 名に、
大学入試についての緊急調査をおこないました。

「大学入試に 4 技能を測定すべき」 66%
「大学独自で 4 技能を測定する試験を実施するのは難しい」 64%

公益財団法人 日本英語検定協会（理事長：松川孝一、所在地：東京都新宿区、以下、「英検協会」）は、昨今、わが国の大学入試改革の一環として、英語の外部試験の導入が有識者の間で議論されるなか、『大学入試に関する調査』を急遽実施いたしました。

本調査は、2014 年 4 月から 5 月にかけて、全国の主要国公立大学の全 76 校の入試関係者（責任者・作問者・運用処理者 ※一部、このいずれかの立場で過去に関係した者、及びその他、大学入試で影響を受ける英語教育・国際教育担当者等）、全 100 名に対し、対面で計 13 項目のインタビュー調査を実施し、それを取りまとめたものです。（一部紙面による回答を含む。）

本調査を急遽実施した理由は、主要大学の入試関係者に、大学入試に関する考えを伺うことで、実態把握と課題を洗い出し、今後、高校教育と大学入試、及び大学教育の連携を推進するためには、「いったいどのような支援や制度的整備が必要か」、といった抜本的施策を検討するための手立てとなればと思いました。なお本調査の詳細結果につきましては添付資料をご参照願います。

【調査結果ピックアップ】（※詳細は別紙のとおり）

- 「大学入学者選抜について 4 技能を測定すべきと思う」と回答した人は、66%
 - ・ 全体として、「そう思う」が 66%、「どちらとも言えない」が 21%、「そう思わない」が 10%
 - ・ 国公立の方が、私立よりも「そう思わない」の割合が若干高かった。
- 「大学入学者選抜の英語の試験が 4 技能化されれば大学の英語教育により影響を及ぼすと思う」と回答した人は、74%
 - ・ 全体として、「そう思う」が 74%、「どちらとも言えない」が 21%
 - ・ 私立の方が、国公立よりも「そう思う」の割合が 20% 程度高かった。
- 「大学が独自で 4 技能を測定する試験を実施することは実現可能とは思わない」と回答した人は、64%
 - ・ 全体として、「そう思う」が 11%、「どちらとも言えない」が 24%、「そう思わない」が 64%
 - ・ 国公立と私立の間に大きな意見の差はなかった。
- 「外部の資格・検定試験を活用し、4 技能を測定する試験に代替することは実現可能だと思う」と回答した人は、53%
 - ・ 全体として、「そう思う」が 53%、「どちらとも言えない」が 32%、「そう思わない」が 15%
 - ・ 私立の方が、国公立よりも「そう思う」の割合が 20% 程度高かった。
- 「外部の資格・検定試験を活用し、4 技能を測定する試験に代替する場合、日本で開発されたテスト（英検、TEAP、GTEC CBT 等）が好ましいと思う」と回答した人は、44%
 - ・ 全体として、「国産テスト」が 44%、「海外テスト」が 14%、「どちらでもよい」が 16%、「どちらでもない」が 18%
 - ・ 私立の方が、国公立よりも「国産テスト」と回答した割合が 15% 程度高かった。

< 本件の問い合わせ先 >

公益財団法人 日本英語検定協会 広報調査室 皆川英明

TEL: 03-3266-6840 FAX: 03-3266-6570 E-mail: kouhou21@eiken.or.jp

大学入試に関する調査について（概要）

2014年6月30日

公益財団法人 日本英語検定協会

1. 調査の目的と位置づけ

この調査は、大学関係者の大学入試に関する実態を把握し、課題を洗い出すことを通じて、高校教育と大学入試及び大学教育の連携を推進するためには、どのような支援や制度的整備が必要か等の点に関して、基礎的データを収集することを目的として、公益財団法人日本英語検定協会（以下、英検協会）が実施したものです。

2. 調査の対象

全国主要国公立大学入試関係者（責任者・作問者・運用処理者）※一部、左記のいずれかの立場で過去に関係した者及びその他大学入試により影響を受ける英語教育・国際教育担当者等からの回答も含む

3. 調査の時期

2014年4月～5月

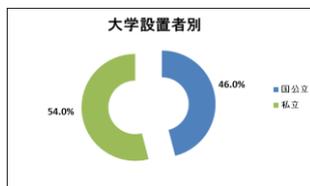
4. 調査の実施方法

対面による構造化インタビュー調査 ※一部紙面による回答を含む

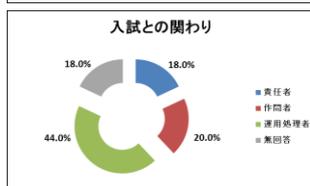
5. 回答数

100件（全76校）

6. 標本特性



私立が54%で国公立が46%と10%程度私立が多くなっている。



責任者：学長・入試課長・入試センター長等

作問者：学部教授・講師等

運用処理者：入試課・入試センター等

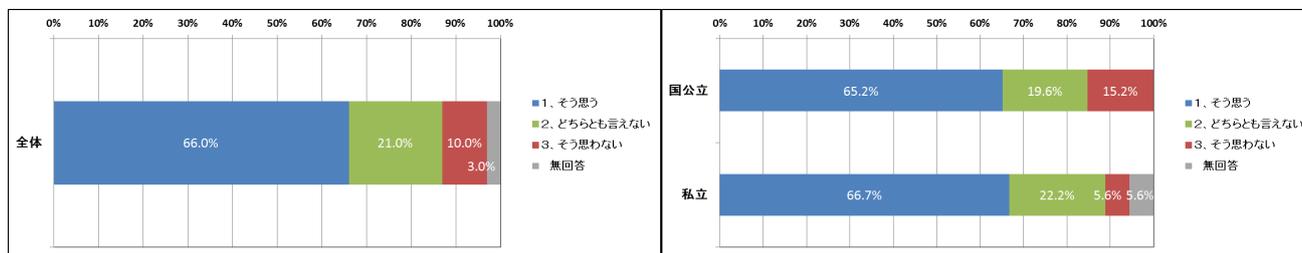
運用処理者が44%で作問者の20%、責任者の18%よりも20%程度多くなっている。

7. 質問項目及び結果概要

※グラフ左：回答者全体、グラフ右：設置者別

※ボックス上：結果解説、ボックス下：個別意見

①大学入学者選抜において4技能を測定すべきだと思いますか。



- ・全体としては「そう思う」が66%、「どちらとも言えない」が21%、「そう思わない」が10%となった。
- ・設置者別では国公立の方が私立よりも「そう思わない」の割合が若干高かった。

1. そう思う

- ・4技能を備えた学生は増えて欲しい。(国公立)
- ・個人的には賛成だが、大学の総意は割れている。(国公立)
- ・机上の知識よりは、実務で使える英語を身に付けてほしい。(私立)
- ・新学習指導要項の考え方に賛同しているため。(私立)

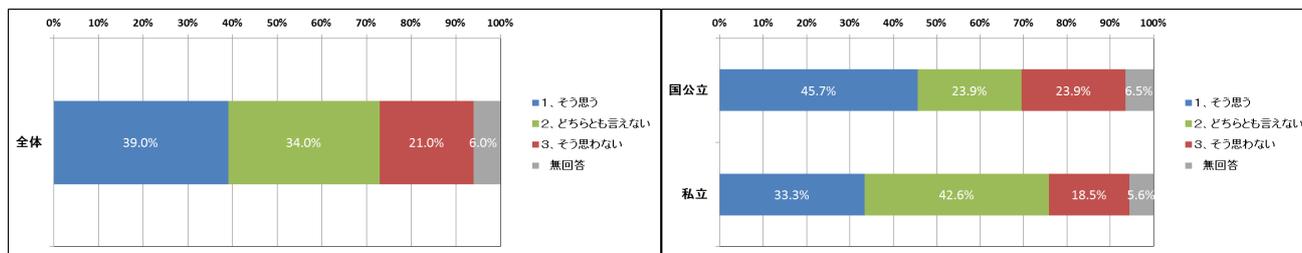
2. どちらとも言えない

- ・小規模な大学なので、現状は必要があるか不明。(私立)
- ・学類の数が多く、学類によって英語重視の比率は異なるため。(国公立)

3. そう思わない

- ・「話す」能力まで測定する必要はない。(国公立)
- ・すべての学部でその必要はない。(国公立)
- ・リスニング、スピーキングは機器を使うので、大規模な実施では責任管理が困難。(国公立)
- ・Sはできなそう。高校で指導できないもの問うべきではない。(国公立)
- ・そこまで高いレベルを求めているない。(私立)

②大学入学者選抜の英語の試験が4技能化されれば、日本人は本当に英語を話したり書いたりすることができるようになりますか。



- ・全体としては「そう思う」が39%、「どちらとも言えない」が34%、「そう思わない」が21%となった。
- ・設置者別では国公立の方が私立よりも「そう思う」の割合が10%程度高かった。
- ・私立の方が国公立よりも「どちらとも言えない」の割合が20%程度高かった。

1. そう思う

- ・試験があるから対策するという流れがあると思うので。(国公立)
- ・入試と高校生のカリキュラムは連動している為英語力は向上するのではないか。(国公立)
- ・要求されないものを生徒は準備しない、先生も教えない。(私立)
- ・高校の英語教育が変わると思うから。(国公立)

2. どちらとも言えない

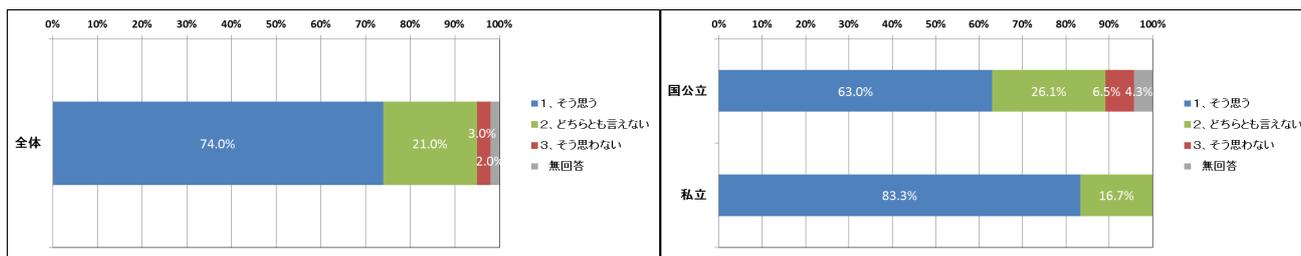
- ・底上げにはあると思うが、それだけでは状況は変わらない。(国公立)
- ・試験対策に留まる恐れがある。(私立)

3. そう思わない

- ・ハイレベルの学生の数が増えるだけで、全体的な底上げには結びつかない。(国公立)
- ・試験だけでは不十分。英語を使用する機会や環境が必要。(国公立)
- ・入試英語は結局「入試のため」。卒業後に英語を使う人でなければその後の伸びはないのでは。(私立)

③大学入学者選抜の英語の試験が4技能化されれば、大学の英語教育に良い影響を及ぼす

と思いますか。



- ・全体としては「そう思う」が74%、「どちらとも言えない」が21%となった。
- ・設置者別では、私立の方が国公立よりも「そう思う」の割合が20%程度高かった。

1. そう思う

- ・学生のレベルを入口で正確に測れ、プログラムに活かしやすい。(国公立)
- ・4技能のバランスのとれた質の高い学生が確保できればそれに合わせてカリキュラムを修正し向上できる。(国公立)
- ・高いレベルでのディベート授業が可能となる。(私立)
- ・4技能バランスよく指導できる。(私立)

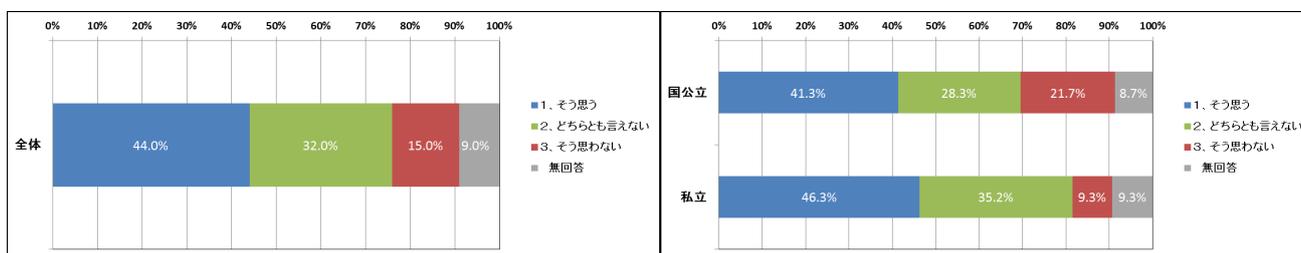
2. どちらとも言えない

- ・各大学の英語教育の目的によると思う。(国公立)
- ・学類の数が多く、学類によって英語重視の比率は異なるため。(国公立)
- ・カリキュラムによるフォローが大切であるため。(私立)

3. そう思わない

- ・大学での授業のために高校までには、基本的な文法事項、語彙力を最低限身につけておいてほしいです。(国公立)

④大学入学者選抜の英語の試験が4技能化されれば、高校の英語教育に良い影響を及ぼすと思いますか。



- ・全体としては「そう思う」が44%、「どちらとも言えない」が32%、「そう思わない」が15%となった。
- ・設置者別では、私立の方が国公立よりも「そう思う」の割合が5%程度高かった。

1. そう思う

- ・学習指導要領に寄り添った教育がなされる可能性が高いと思います。(国公立)
- ・高校では大学入試を見据えて勉強を行うから。(国公立)
- ・中高の英語の先生が、親や学校から責められることなく堂々とスピーキング指導ができる。(私立)
- ・高校の先生が変わらざるを得ない。(私立)

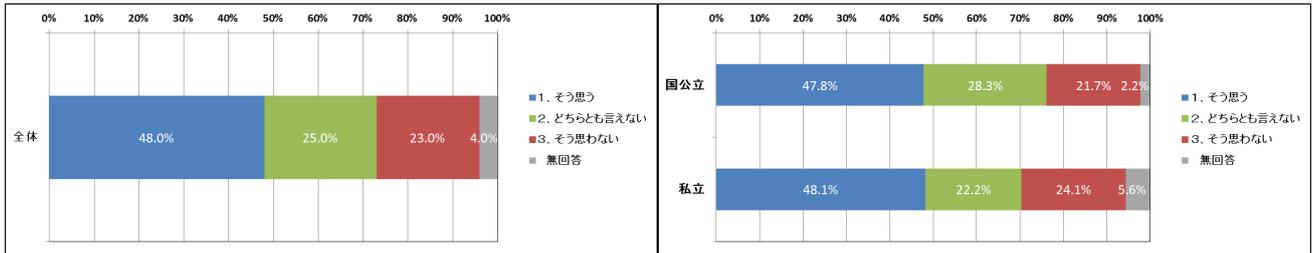
2. どちらとも言えない

- ・高校にとっては4技能を教えるカリキュラムが追いついておらず、時間がかかる。(国公立)
- ・試験だけでなく指導が必要。(国公立)
- ・十分な指導力を持った教師が不足しているのは明らか。長い目で見れば、良い影響があると思うが、現状では、負の側面もあると思う。(私立)

3. そう思わない

- ・4技能それぞれに均等に時間を割くと、これまで重要視していた部分(writing、読解)の内容が薄まってしまう。(私立)
- ・高校教員にとっては授業を行っていくことになる。また、学習指導要領との擦り合わせが困難。(国公立)

⑤貴学の個別試験で4技能測定を実施したいと思いますか。



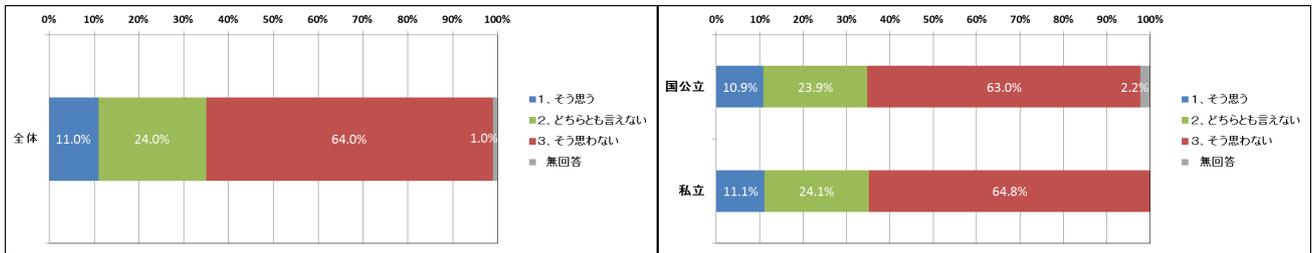
・全体としては「そう思う」が48%、「どちらとも言えない」が25%、「そう思わない」が23%となった。
 ・設置者別では、国公立の方が私立より「どちらとも言えない」の割合が5%程度高かった。

1. そう思う
 ・必要なスキルだと思うので。(国公立)
 ・費用が許せば。(国公立)
 ・国際的に通用する能力を持った人が入学することになる。(国公立)
 ・先行する大学に良い学生を取られないため。(私立)
 ・4技能の力を持った学生が欲しい。(私立)

2. どちらとも言えない
 ・「話す」ことについての評価基準が定めにくい(国公立)
 ・1から10まですべて作るの大変だと思う。(国公立)
 ・今後の全国的な導入状況による。(国公立)
 ・全国的な流れができれば。(私立)

3. そう思わない
 ・そこまで高いレベルを求めている(国公立)
 ・リスニング、スピーキング使用機器に支障があった時の責任問題がある。(国公立)
 ・現状のところ考えていない。(私立)
 ・規模的に導入が難しい。(私立)

⑥大学が独自で4技能を測定する試験を実施することは実現可能だと思いますか。



・全体としては「そう思う」が11%、「どちらとも言えない」が24%、「そう思わない」が64%となった。
 ・設置者別では、国公立と私立の間に大きな意見の差はなかった。

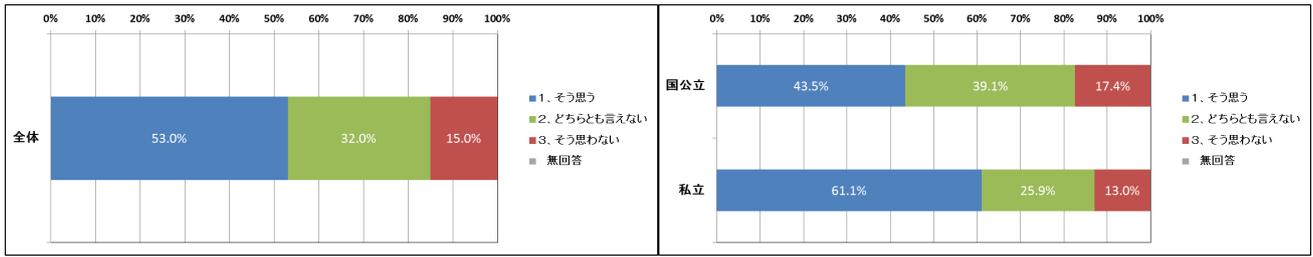
1. そう思う
 ・こちらも費用をかけられるのであれば実現できる可能性はある。(国公立)
 ・一般入試ではなく、AO・公募などでは可能だと思う。(私立)

2. どちらとも言えない
 ・小さい学科であれば可能。全体では無理。(国公立)
 ・各学部がどんな英語力を求めているかによる。(国公立)
 ・議論になったことがない。(私立)

3. そう思わない
 ・アドミッション側の人数・経験が貧弱。(国公立)
 ・採点者のばらつきをなくすためのトレーニングや費用の問題がある。(国公立)
 ・ライティングはやっているがスピーキングは無理。(私立)
 ・リスニングですら困難。(私立)
 ・先生の仕事量・負担が問題になる。独自では恐らく不可能。(国公立)

⑦外部の資格・検定試験を活用し、4技能を測定する試験に代替することは実現可能だと

思いますか。



・全体としては「そう思う」が53%、「どちらとも言えない」が32%、「そう思わない」が15%となった。
 ・設置者別では、私立の方が国公立よりも「そう思う」の割合が20%程度高かった。

1. そう思う

- 各学部の同意が取れば。(国公立)
- 大学独自で行うよりも実現しやすい。(国公立)
- 代替は難しいが、活用という意味合いであればAO入試等で可能。(国公立)
- 有効性が認められれば問題無い。(国公立)
- 独自の英語試験を免除する形で実施可能。(私立)
- 学内で問題制作をするよりは現実的。(私立)

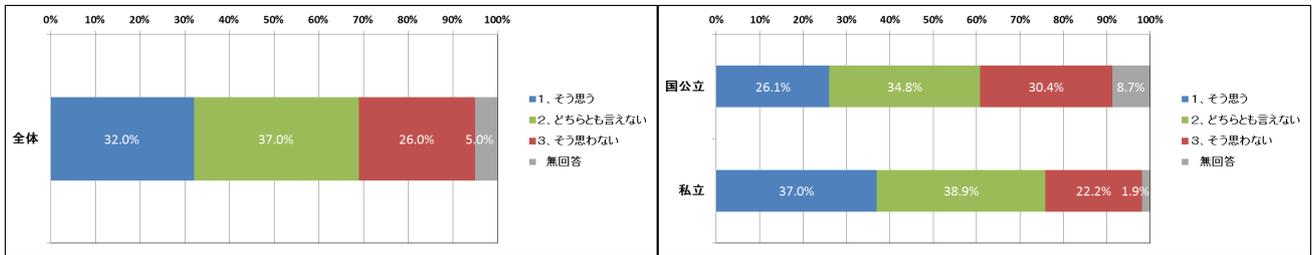
2. どちらとも言えない

- 外部試験における統一的な基準がないと、大学の入試への点数換算が困難。(国公立)
- 受験料や試験の難易度による。(国公立)
- 自分で作った問題で入学者を審査するのが最良と考える教員もいる。(国公立)
- 外部の試験はいいが、2技能で良い。(国公立)
- 自分の大学のカラーが入試に現れるので、全て代替してしまうのどうかと思う。(私立)

3. そう思わない

- 学部の入試担当者が作問にこだわりを持っており、それがアドミッションポリシーに関連しているという理由。(私立)
- 入試を学内で作問している(=その能力がある)ということが一種のステータスになっている。(私立)
- 英語は国数に並んで肝になる科目なので完全に外部試験に頼るのは困難。(国公立)

⑦- (1) 外部の資格・検定試験を活用し、4技能を測定する試験に代替する場合、貴校を受験する生徒の数は減るとおもいますか？



・全体としては「そう思う」が32%、「どちらとも言えない」が37%、「そう思わない」が26%となった。
 ・設置者別では、私立の方が国公立よりも「そう思う」の割合が10%程度高かった。

1. そう思う

- 4技能なら減りそう。RLの2技能なら減らなそう。(国公立)
- 当学だけが実施した場合は減る可能性はある。今の科目数だから受験してくれているのもあると思うので。(国公立)
- 一般入試に導入したら確実に減る。(私立)
- 「出来るだけ案に大学に行きたい」という高校生は必ずいる。(私立)

2. どちらとも言えない

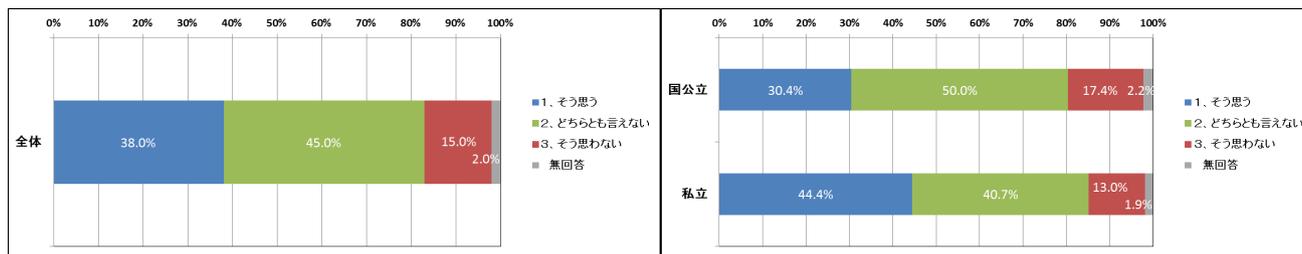
- 学部によっては英語を課したとたんに減る。文系はそんなに変わらない。(国公立)
- 特に減るとは思わないが受験費用の負担が大きいと敬遠される可能性は残る。(国公立)
- 1つの試験だけを課すのなら減るかも。いろいろな選択肢が出来れば減らない。(私立)
- 外部試験の受験者数による(普及の度合い)。(私立)

3. そう思わない

- 選択肢が増えるので減らない。(国公立)
- 独自のプログラムを開講しているので、共感する学生は受験する。(国公立)
- 「外部試験を使うのが当然」という風潮ができれば可能では。そういった風潮を作りたい。(国公立)
- 最初は減ると思われるが認知度が上がれば影響がない。高校の姿勢が課題。(私立)

⑦- (2) 外部の資格・検定試験を活用し、4技能を測定する試験に代替する場合、大学側

が得られるメリット（作問及び成績処理の費用と手間等）はデメリット（検定料収入、対外的イメージ）を上回るとお考えですか？



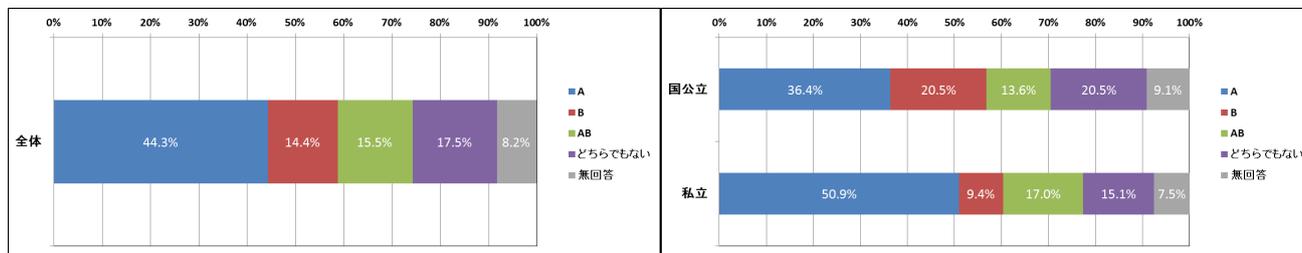
・全体としては「そう思う」が38%、「どちらとも言えない」が45%、「そう思わない」が15%となった。
 ・設置者別では、私立の方が国公立よりも「そう思う」の割合が15%程度高かった。

1. そう思う
 ・手間、プレッシャー、時間が無駄になっている。(国公立)
 ・大学教員本来の役割は入試作問ではない。また、外部試験導入が認められる時代の流れができればイメージダウンも無い筈。(国公立)
 ・作問の負担が減るのは大きい。作問はリスクもある。(私立)

2. どちらとも言えない
 ・全ての英語試験を外部、ならメリット大きい。しかし独自問題は作らざるを得ない。(国公立)
 ・入試は大学のアドミッションポリシーを示す象徴なので、全学的に受け入れるのは難しい。(国公立)
 ・問題作成の手間はなくなるが作ることを誇りに思っている先生もいる。(私立)

3. そう思わない
 ・「入試は手作り」という意識がある。(国公立)
 ・大学独自の欲しい人材という面の特色が薄れると思います。(国公立)
 ・大学独自の作問は行う(独自の物差しは持っているべき)。(私立)
 ・検定料収入は大きな収入源。作問の仕事がなくなる。(私立)

⑦- (3) 外部の資格・検定試験を活用し、4技能を測定する試験に代替する場合、(A) 日本で開発されたテスト（英検、TEAP、G-TEC CBT等）と (B) 国際的に認知されているテスト（IELTS、TOEFL iBT等）ではどちらが好ましいと思われますか。お選び下さい。



・全体としては「国産テスト」が44%、「海外テスト」が14%、「どちらでもよい」が16%、「どちらでもない」が18%となった。
 ・設置者別では、私立の方が国公立よりも「国産テスト」の割合が15%程度高かった。

1. 「国産テスト」
 ・高校の指導要領を理解しているのは国産の試験だから。(国公立)
 ・自国の教育には、自国の人材が責任をもって担当すべきと考えます。(国公立)
 ・高校生のレベル、学習内容に合致している。(国公立)
 ・海外テストはレベルが高すぎる。(私立)
 ・値段の安さも大事な要素。(私立)

2. 「海外テスト」
 ・グローバル人材育成の観点からは、国際的に認知されているテストのほうが良い。(国公立)
 ・留学等に利用しやすい。(国公立)
 ・入学後も活用ができる。(私立)
 ・国際基準に準拠している。(国公立)

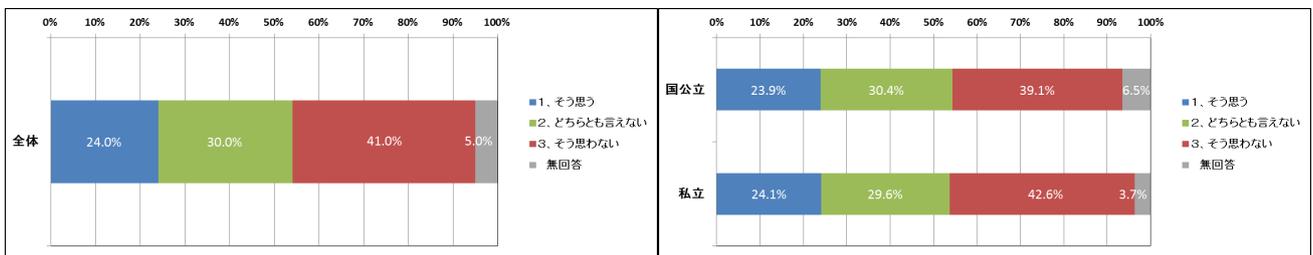
3、「どちらでもよい」

- ・大学のアドミッションポリシーに合致する方。(国公立)
- ・重要なのは受験者数や実施可能性、全国に会場があること。(国公立)
- ・多様な入試の中で両方活用していきたい。(私立)

4、「どちらでもない」

- ・現段階ではどちらとも言えない。(私立)

⑧外部の資格・検定試験の4技能型英語テストで一定基準に達している入学志願者に入学志願者選抜の英語の試験を「みなし満点」とする大学がありますが、これは貴校にとって導入しやすいと思いますか。



- ・全体としては「そう思う」が24%、「どちらとも言えない」が30%、「そう思わない」が41%となった。
- ・設置者別では、国公立と私立では大きな意見の差はなかった。

1. そう思う

- ・センター利用入試に代替するような形であれば可能。(国公立)
- ・合意さえ得られれば。(国公立)
- ・特別入試で検討中。一般入試に取り入れることも可能だと思う。(私立)

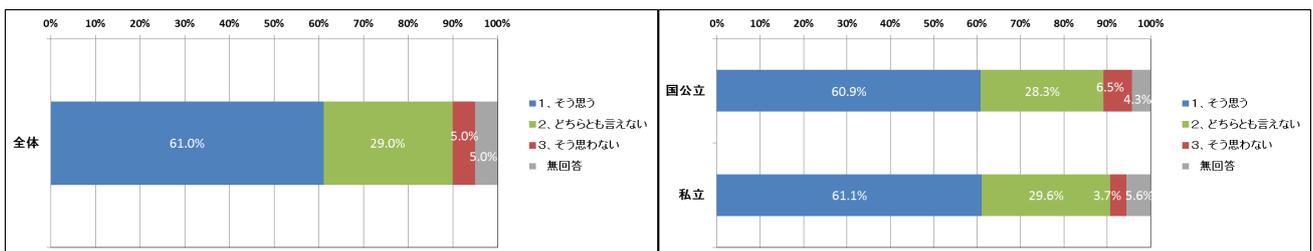
2. どちらとも言えない

- ・きちんとした検証が無ければ、不合格になった受験者に説明責任が果たせない。(国公立)
- ・検討したことがない。コンセンサスを得るのは難しい。換算表等活用できれば比較的楽。(国公立)
- ・一部加算ならやりやすい。(国公立)
- ・AOや指定校などではOK。一般では合意形成は難しい。(私立)

3. そう思わない

- ・手続きが大変。(国公立)
- ・「みなし満点」対象となる各外部テストの正確な相関を出すのが難しい。(国公立)
- ・学内・学外試験のスコアの整合性が取りにくいので。(国公立)
- ・本学の入試にはプライドがあり、独自性にこだわっていくため。(私立)

⑨入学志願者選抜において英語の4技能を評価して選抜を実施する場合、大学においてその能力をさらに伸ばすような教育課程が編成されていますか。



- ・全体としては「そう思う」が61%、「どちらとも言えない」が29%、「そう思わない」が5%となった。
- ・設置者別では、国公立と私立では大きな意見の差はなかった。

1. そう思う

- ・海外へ送るプログラム等は拡充方向。(国立)
- ・4技能に対応する多くの授業があるので。(国公立)
- ・現在、対応できる学部やカリキュラムを増やしているところ。(国公立)
- ・留学・インターン・講座等がある。(私立)
- ・大学の基本方針として、「入学後に英語力を向上させる」というものがある。(私立)

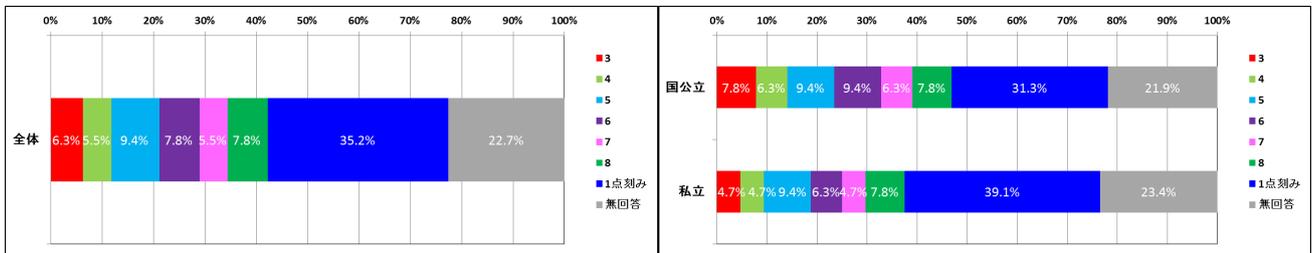
2. どちらとも言えない

- ・大学全体としては、そのような教育課程の編成ではない。(国公立)
- ・各学部教務の管理分野のため、把握していない。(国公立)
- ・学部、学科によっては、英語のプログラムが用意されている。(私立)
- ・用意してあるが入学者全員には行き渡らない。(私立)

3. そう思わない

- ・英語科目は教員それぞれの方針で行っているのが実情。足並みを揃えるのは難しい。(国公立)

⑩達成度テストにおいては1点刻みにならない結果表示が検討されていますが、英語試験の結果として何段階であれば使いやすいですか？



- ・全体としては「1点刻み」が35%、それ以外の「数段階表示」が5%~9%だった。
- ・設置者別には、国公立の方が私立よりも「数段階表示」の割合が10%程度多かった。

1. 「1点刻み」

- ・同点が複数人いた場合、判定にはかなりの神経を使う。(国公立)
- ・他の教科が一点刻みで英語だけざっくりは無理。(国公立)
- ・評価が難しい。アバウトにしない方が良い。1点差でもそれが実力。(私立)

2. 「数段階表示」

- ・1~2点には実力は反映されない。(国公立)
- ・足切りとしての使用には、ある程度の実力がわかれば問題ない。(国公立)
- ・一点刻みはあまり意味がなく、同じ人でもブレるので、点数そのものに頼りすぎるのはよくない。(私立)